

令和４年度 第７回

宍粟市教育委員会

会 議 録

(要点筆記)

日時 令和４年10月17日 午前９時30分から

場所 宍粟市役所 ４階 401・402会議室

第7回（定例）宍粟市教育委員会会議録

● 開会・閉会の年月日時及び場所

令和4年10月17日（月） 午前9時30分～午前10時50分

兵庫県宍粟市山崎町中広瀬133番地6 宍粟市役所 4階 401・402会議室

● 会議に出席した者の職氏名

教育委員

中田直人 教育長

片山繁樹 委員

金本一二 委員

飯田さおり 委員

中川まゆみ 委員

事務局

大谷奈雅子 教育部長

小河秀義 教育部次長

進藤美穂 次長兼教育総務課長

岩薮貴裕 こども未来課長

西林文隆 次長兼施設整備課長

谷尻博誉 学校教育課長

水口恵子 社会教育文化財課長

池本雅彦 次長兼山崎学校給食センター所長

中尾善弘 次長兼まちづくり推進課長

太田雅章 まちづくり推進課スポーツ推進室長

西岡公敬 一宮市民局副局長兼まちづくり推進課長

岩本浩二 教育総務課副課長

1 開会

中田教育長が開会した。

2 会議の成立宣言

出席者数5名となり、中田教育長が会議の成立を宣言した。

3 会議録署名委員の指名

署名委員は、中田教育長の指名により、片山委員に決定した。

4 前回会議録の承認

令和4年度第6回（定例）宍粟市教育委員会会議録の承認に関する件

前回の会議録について、進藤次長兼教育総務課長が説明し、承認された。

5 教育長報告

次の3点について、中田教育長が報告した。

（1） 山崎南中学校学校規模適正化に向けた対応について

山崎南中学校区においては、平成25年の地域の委員会のなかで、幼保一元化の協議を先行

して行い、学校規模適正化の協議は繰り延べると決定された経緯があったが、戸原地区では平成31年に戸原こども園が開設し、城下地区では令和6年4月に城東保育所周辺に新たなこども園が開設予定となった。

このことから、本年度に入り、地区自治会長および両校のPTA会長と協議再開について調整し、また、戸原地区で保護者意識調査を行いその結果もふまえ、城下地区は10月13日に、戸原地区は10月下旬に、それぞれ学校規模適正化に関する説明会を開催することとなった。

今後、教育委員会においても随時報告させていただくが、基本的なスタンスとして、保護者の方々、地域の方々の意向を尊重し、子どもたちにとってよりよい教育とは何かを考えながら、計画を推進していきたい。

(2) 山崎地区および城下地区認定こども園の進捗状況について

山崎地区の認定こども園については、運営事業者である山崎若葉保育園が7月から本格的に園舎の建設に着手し、来年4月の開園に向けて着実に事業を進めている。また、この設置に係る認可についても、県の認定審議会の内示が9月にあったので、早速来年度の園児の募集を開始する予定である。

城下地区の認定こども園については、土地に関しては10月中には地権者の方と本契約を締結して名義の変更を行う予定であり、敷地の造成に関しては来年4月には運営事業者となるひこばえ福祉会に用地を貸与し5月からは同福祉会が園舎の建築工事に着手する予定となっている。

(3) 山崎学校給食センターの全国学校給食甲子園（2022）3次審査通過について

山崎学校給食センターが、第17回全国学校給食甲子園（2022）の3次審査を通過したとの報告があった。この大会には全国から1249施設の応募があり、その中から3次審査を通過したのは24施設とのこと。大変うれしいニュースであり、12月には決勝大会があるとのことだぜひそこまで進んでほしいと思う。

6 協議報告事項

(1) 宍粟市3歳児教育実施要綱の廃止について

資料1【1～2P】により、進藤次長兼教育総務課長が説明した。

(2) 令和5年度 幼稚園・保育所・こども園の園児募集について

資料2【3～4P】により、進藤次長兼教育総務課長及び岩路こども未来課長が説明した。

(3) 令和5年度 あずかり保育・学童保育の児童等募集について

資料3【5P】により、岩路こども未来課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(中川委員)

先ほどの説明で、認定こども園の幼稚園部の定員が15名とのことであったが、幼稚園部の定員は設けないと認識していた。定員が定められたということか。

(岩路こども未来課長)

幼稚園部について、入所調整はないものの、園則で定員を定めている。兵庫県に園の開設許可を申請する際に、3～5歳児それぞれ5名の15名で届出をしている。

(4) 令和4年度 第1学期「いじめ事案」について

資料4【6～8P】により、谷尻学校教育課長が説明した。

(5) 令和4年度 理科おもしろ実験教室の実施予定について

資料5【9～10P】により、谷尻学校教育課長が説明した。

(6) 学校給食における異物混入状況及び対策について

資料6【11P】により、池本次長兼山崎学校給食センター所長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(片山委員)

いじめ事案について、令和元年度はコロナ禍で認知件数が減少したが、その後、令和2～4年度はほぼ同程度かと思う。また、認知の方法による分類についてもほぼ今年度と変わらない状況と見られる。

気になるのは、教師が子どもの様子から気づき対応した結果、認知に至った件数について、令和2～4年度とも10件未満の件数になっている点である。いじめは教師の見えないところで起こることが多く仕方ないとも思うが、この部分の認知件数をもう少し上げていくことはできないか。

(谷尻学校教育課長)

教師が子どもの様子から気づき対応する件数は、委員が言われるとおり、どうしても少なくなる。教師のわからないところでいじめがあるのは事実かと思う。ただ、そういった状況の中でもいじめに気づかなければということで、一つはアンケートによる方法、また、児童・生徒と日ごろから信頼関係を構築することで子どもたちから伝えてもらえるような関係を築いていくこと、これも非常に大事かと思う。

どの教師もいじめに気づかなければという強い思いは持っている。普段の子どもの様子を教師が丁寧に見ていくことが非常に大事であり、普段と違う様子の時には子どもへ積極的に声をかけるなど、どの学校にもあらためてお願いしていく。

(片山委員)

教師も忙しいので、休み時間は課題の点検等に時間を取られるかと思うが、子どもと一緒に遊んだり、話をする時間は非常に大事かと思う。

別件で、小中の連携でスムーズにいじめ案件を解決した例があるが、小中一貫教育が

推進されていく中で、さらにスムーズな対応ができるのではないかと期待している。

(中田教育長)

認知件数58件の内訳は、アンケート18件、教師の気づき 7 件、児童生徒からの訴え16件、保護者からの訴え17件と、教師による認知が一番少ない。

アンケートによる認知は、子どもたちが教師を信頼し、教師がそれに応えているものであり、それがおろそかになると、このアンケートでの認知件数というのは残念ながら減っていくだろうと思う。児童生徒からの訴えは、子どもたちが傍観者ではなくて仲裁に入ろうと、いじめを許したくない気持ちから、自分たちの力ではどうしようもできないが先生や保護者に伝えることで解決しようとしているもの、また、保護者からの訴えは、学校を信頼して解決のために伝えていただいているものだと思う。

すべて大事であるが、教師の認知・気づきの部分は、本当に難しい問題である。いじめは潜在化して見えないところで行われることが多く、これに気づくため、教師の認知力を高めるにはどういった視点で子どもたちを見ていけばいいのか、次回の校長会の議題で取り上げて、検討していきたい。今も一生懸命取り組んでいただいていることは当然だが、より認知の精度を上げるための工夫や、解決の糸口になるような取組ができればと思う。

(7) 宍粟市スポーツ推進計画（案）について

別冊資料「宍粟市スポーツ推進計画（案）」、「宍粟市スポーツ推進計画 概要版（案）」により、太田スポーツ推進室長が説明した。

(8) 宍粟市スポーツ施設の開館時間の変更について

資料 7 【12P】により、中尾次長兼まちづくり推進課長が説明した。

(9) その他

・第17回 全国学校給食甲子園（2022）について

当日配布資料により、池本次長兼山崎学校給食センター所長が説明した。

・家原遺跡公園・まほろばの湯・御形の里オートキャンプ場の状況報告について

当日配布資料により、西岡一宮市民局副局長兼まちづくり推進課長が説明した。

委員の主な意見及び事務局の説明

(中田教育長)

全国学校給食甲子園には毎年エントリーされているのか。

(池本次長兼山崎学校給食センター所長)

大会は平成18年から始まっており、平成20年に当時の一宮学校給食センターがエントリーした。その際も、全国大会に出場し、優秀賞を受賞している。

7 次回会議の招集について

令和4年11月17日（木）午前9時30分から、宍粟市役所4階402・403会議室において、令和4年度第8回宍粟市教育委員会を開催することとした。

8 閉会

片山委員が閉会した。